大阪教育大学紀要　第Ⅴ部門　第59巻　第２号　15 ～ 30（2011年２月）

わらべうたのカノンを取り上げた歌唱デジタル教材の検証

竹下（たけした）　裕来（ゆき）*・寺尾（てらお）　正（ただし）**

* 修士課程音楽教育専攻修了・** 音楽教育講座

（平成22年８月31日　受付）

本稿は，大阪教育大学での平成20年度特別教育プロジェクト「次世代を育てる全領域デジタル教材の展開―学校・家庭で活用できるデジタル教材の開発」において，音楽教育講座が制作した音と映像によるデジタル教材についての研究である。今回の教材開発で注目精選したのは「わらべうた」と「カノン」である。本論文では，この歌唱デジタル教材の制作意図とその内容を明らかにし，教材が実践された授業等でのアンケート調査をもとにして，教材としての効果を検討する。

キーワード：カノン，わらべうた，デジタル化，教材開発

本論文は，竹下裕来の修士論文に基づき，アンケート調査なども加味した教材研究である。

Ⅰ　はじめに

子どもは幼児教育後，小学校において初めて系統だった歌唱教育を教授されることになる。小学校音楽は，低学年においては担任が授業を任され，中学年や高学年においては音楽専科の教員が授業をすることが一般的である。しかしその一方で，音楽を専門的に教える音楽専科の教員を配置している学校と，専科を置かずに音楽の授業を全学年担任に任せている学校など，音楽の授業の扱いは地方や学校単位でさまざまである。そのため，授業を担当する教員の音楽的スキルの違いから，各学校における音楽の授業の質に大きな差が生じている。事実，音楽を専門に学んでいない，若しくは苦手意識を抱いている小学校教員の中には，音楽の授業展開が意のままにならず，教科書に掲載されている曲を，指導書や付属のCDを用い，そのマニュアルに従った受動的教授にならざるをえない，という声も多い。しかし，芸術教科としての音楽が子どもにさまざまな影響をもたらす可能性を考えるとき，ただ教科書を機械的にこなすだけでなく，音楽を知り，演奏する喜びや，音楽学習を通して音楽の良さ感じ取る力を培っていくことが，望ましい授業の在り方だと考える。このような現状を危惧し，教員養成大学音楽部門として何を成せるか深慮の結果，本論文の研究対象となる歌唱デジタル教材を制作するに至ったのである

大阪教育大学での平成20年度特別教育プロジェクト「次世代を育てる全領域デジタル教

材の展開―学校・家庭で活用できるデジタル教材の開発」において，音楽教育講座は，音と映像によるデジタル教材を制作した。このデジタル教材制作の出発点は，大学の授業である小学校教科専門科目（音楽）のあり方にあった。この授業を履修している学生の多くは小学校教員を志しているが,読譜や楽器演奏に劣等感や苦手意識を抱く者が少なくない。そこで，このような学生にも比較的取り扱いが容易で，授業に生かすことのできる音楽教材を作ることが急務だと考えたのである。

この考えに立脚して，筆者（寺尾）が行った授業内容のなかで顕著な成果を得た「わらべうた」と「カノン」に注目し，この教材のコンテンツとしたのである。

本論文では，この「わらべうた」と「カノン」を内容とした音楽教育講座制作の歌唱デジタル教材の制作過程を辿るかたちで，わらべうたをカノンにしたデジタル教材の有効性について検証していく。

Ⅱ　歌唱デジタル教材制作の意図

平成20年度制作の音楽教育講座デジタル教材の正式名称は「音楽科授業改善のためのデジタルコンテンツ　誰にもできるステップアップ教材　～わらべ歌編＆コーラス編～ Vol. 1」（以下，本デジタル教材と記す）である。本デジタル教材で取り扱う教材曲はすべてカノンの形式で，そのうちおよそ半分がわらべうたをカノンにしたものである。本項では,「わらべうた」と「カノン」の教材選択の背景と，デジタル化の効果についてまとめる。

１．わらべうた

わらべうたを教材として選んだ理由として，第一に日本固有の伝承音楽であることが挙げられる。わらべうたの多くは，２音ないし５音からなる伝統的な音階で歌われ，遊びを伴うため，子どもにとっては親しみやすい身近な日本音楽である。近年，子どもがわらべうたを歌うことが少なくなったとも言われているが，日本固有の音楽として子どもがわらべうたに親しむことは，自国のアイデンティティーを意識することになり，我が国の音楽教育において最も重要なことの一つであるのは言うまでもない。

次に，児童期の歌唱教育に対する疑問がある。キリスト教音楽を源とする音楽（西洋音楽）が日本の音楽教育でも主流になっているが，実際の私たちの生活の中で，日常的に教会等で音楽を聴く環境はほとんどない。しかし，小学校も中・高学年になると，どの学校においても斉唱に続き，和声的な合唱（西洋音楽の様式に基づいたもの）を始めることが一般的である[1)]。そこで，このような和声的合唱活動を始める前段階として，わらべうたの導入を提案するのである。わらべうたは，子どもに身近な歌である。そして，カノンにアレンジすることによって，子どもに音楽的変化を感じさせるとともに，声を重ね，他声部を聴く能力，つまり合唱の能力を育成できる，大変発展性のある教材になり得ると考える[2)]。子どもたちにいきなりハーモニックな合唱の中へ飛び込ませるのではなく，声を出し，声を重ねること，声を聴くことへの初歩的な訓練のために，本デジタル教材では「わらべうた」から「わらべうたのカノン」，そして「和声的な合唱」へ，という歌唱指導の流れを提案している。

2．カノン

カノンを教材に選んだ理由として，第一に，合唱を演奏する歴史が浅い日本においては，西洋音楽が辿った合唱音楽への道筋にヒントを得るべきだ，という考えに立った。西洋では，中世からカトリックの儀礼で用いられる単旋律のグレゴリアンチャントを基に，それを修飾することで音楽により広がりを求めた。その要求から発明されたものに，カノン，オルガヌムがある。カノンは，ある旋律を一定の規則をもとに重ねていく音楽形式であるが，そのカノンが合唱音楽の初期にさかんに歌われ，発達した理由は，対位法的な動きの中で，各声部が重なることによって生み出される様々な響きのおもしろさに心奪われたからではないだろうか。その原初的な感覚を，子ども達にも体験させるべきだと考えるのである。

次に，特に歌唱技能を伸ばすための教材としてカノンに注目したことが挙げられる。カノンはお互いの声を聴きあって，音や拍を合わせながら歌うことが重要となる音楽形式である。周りの声を注意深く聴きながら自分の声を調節することは，継続して行えば，音の高さをコントロールし，リズムを揃える技能を養うことにつながる[3)]。

そして最後に，教育的に有利に働く，カノンのいくつかの特性が挙げられる。特性とは，短く単純なものが多い，すべてのパートが主旋律となる，無伴奏のものが多い，などである。これらについて，カノンの特性から得られる教育的効果を竹下は以下のようにまとめている[4)]。

・子どもがすぐに歌を覚えることができる
・１つの旋律を覚えるだけで高度な歌唱表現が味わえる
・多様な音楽を理解する上でのヒントとなる
・すべてのパートが平等に扱われ，子どもの歌う意欲を高めることができる
・教師の技術的な負担を減らすことができる

さらに，単純なカノンは同じ旋律をずらして歌うという形式のため，子どもが同じメロディーを一緒に練習できるという面で教育的にも優れている。例えば，カノンの練習はまずユニゾンで始め，そこから２声，３声，４声と声部を広げていくことができる。このとき和声的な合唱曲にみられる，どこかのパートが異なる音型を歌う，または休み，などの差が出ることはない。また,声部を増やすことは子どもの程度に応じてレベルを調節でき，うまくいかなかったらユニゾンに戻って練習することが可能である。それに対して，和声的な合唱曲の場合は，多くの場合ソプラノが主旋律を歌い，他の声部は旋律を支える和声的パートを歌うため，曲に取りかかる初歩の段階から，同時に練習することはほとんど不可能に近い。さらに，主旋律を支える和声的パートは，音楽上重要な役割を担っているとはいえ，難しい音の動きのものも多く，人によっては歌うことが嫌になってしまうことさえある。基本的に無伴奏で歌うわらべうたのカノンの音高が比較的安定する理由は，これらの難しさを原理的に回避できるからである。

そして何より，歌唱指導の際，各パートが循環して表れるので，教員が音高のズレを指摘（認識）しやすいことが指導上有利な点である。そのためカノンは，音楽に苦手意識をもっている教員にとっても，比較的扱いやすくなる可能性を持っていると考えられる。

3．デジタル化

本デジタル教材では，音・映像・ナレーション・文字情報が一体となった視聴覚教材の

形で教材の内容を示している[5)]。デジタル化することで，音楽を専門としていない教師でも授業で扱う曲についてより深く理解し，音楽の授業が行いやすくなるのではないかと考えたためである。ここで，本デジタル教材におけるデジタル化の特徴について整理しておくことにする。

（1）演奏場面（音・映像）・ナレーション・文字情報の同時の視聴

演奏場面を実際に視聴することにより,指導する側の教員が曲をイメージしやすくなる。さらに，子どもが映像を見ることによって，自分の歌う姿を想像しやすくなるという効果があると考えられる。ナレーションでは，歌唱指導で気をつける点，工夫する点について説明を加えた。また，そのナレーションを字幕で表示するとともに，ナレーションで説明しきれない教材の補足的内容については，文字情報として映像中に示した。このように，演奏場面（音・映像）・ナレーション・文字情報の同時の視聴は，教師が即座に曲をイメージすることと，指導の内容と方法を具体的に理解し，把握しやすくすることを手助けすると考えられる。

（2）チャプター設定

チャプター設定については，指導のステップをチャプターで選べるようにすることで，教材を使いやすくしていると考えられる。また，選んですぐ表示できるということは，教師が教材を子どもに提示する際や，子どものリクエストに答える場合にも使いやすく活用できる機能だと考える。

（3）インターネット動画配信

インターネット動画配信することで「いつでも，どこでも，誰でも」見ることができる教材になると考えられる。これは，忙しい教員にとっても有効であり，教材へのアクセスがより身近で容易になるのではないだろうか。

これらのデジタル化が果たされたことにより，より扱いやすく，分かりやすい教材開発に近づいたと考える。情報化，デジタル化が進む中で，教育分野においてもパソコンの活用，教科書のデジタル化などが試行されている。今後，より効果的に子どもに音楽を感じさせ，音楽の理解へ導くために，音楽科におけるデジタル機器・デジタル教材のより一層の活用が必須となろう。

Ⅲ　教材の内容

本デジタル教材は，わらべうた編とコーラス編の2つのコンテンツにわたる，全9曲で構成されている。すべての曲について，初歩から発展形までステップアップさせたものを，ナレーション付の映像によって紹介している。また,本デジタル教材は,DVDによるメディア化に加え，大阪教育大学ホームページからインターネットで配信されている（http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/~ongaku/）。さらに，教材付属の取扱説明書も作成し，DVDに添付およびホームページからのダウンロードによって閲覧可能になっている。

これから，各編の選曲理由および曲の特性についてまとめ，本デジタル教材の内容を述べる。

１．わらべうた編

わらべうた編は，「おちゃらかほい」，「だるまさん」，「あめこんこん」，「前の門さん」，「いちもんめのいっすけさん」の5曲を扱っている。これらすべてのわらべうたをカノンにした演奏を収録している。

（１）おちゃらかほい

本デジタル教材の最初歩のステップとして取り上げている。この曲のみ，オスティナートなしの曲として紹介している。本教材の冒頭において，児童が手遊びをして遊ぶ場面が登場するが，この「おちゃらかほい」を使ってカノンをしている。この曲は，カノンをすることが主目的というよりは，手遊びをしながら歌に親しむことに重点を置いた教材である。「おちゃらかほい」のステップは以下の通りである。

Step1　メロディーユニゾン　【みんなで声を合わせて歌おう】
～いっぱい遊んでいっぱい歌おう～
Step2　メロディーカノン　【歌で追いかけっこをしてみよう】
～つられずに歌えるかな？～

（２）だるまさん

この曲は，４声のカノンにする前の段階として，３声で重なるカノンになるよう設定され，メロディーのユニゾンと声による伴奏であるオスティナートの２声カノンの重なりまでステップアップされている。この曲も，冒頭の映像で手遊びの場面が映し出されている。「あっぷっぷ」のオスティナートが大変リズミカルで，「歌って楽しめる」という感想の多い教材である。

Step1　メロディー（ユニゾン）【みんなでメロディーを歌おう】
～いっぱい遊んでいっぱい歌おう～
Step2　伴奏（ユニゾン）　【メロディーに歌で伴奏をつけてみよう】
～とても簡単！繰り返すだけ～
Step3　Step1＋Step2　【メロディーと伴奏を一緒に歌おう】
～うまくあわせられるかな？ともだちの声をよく聴こう～
Step4　伴奏（カノン）　【伴奏をパワーアップさせよう】
～ずらして歌うだけでおもしろい！～
Step5　Step1＋Step4　【パワーアップした伴奏にメロディーをのせてみよう】
～いろいろに重なり合う声が聴こえるかな？～

（３）あめこんこん

この曲以降，メロディー（２声カノン）と伴奏のオスティナート（２声カノン）による全４声のカノンまでステップアップする教材曲を扱う。「あめこんこん」は，比較的メロディーが覚えやすく，歌詞も親しみやすい内容であるため取り上げた。特に，歌詞の「たんとふれ」と「ちっとふれ」の箇所では，強弱を工夫するなどの表現的な内容にも触れることができる教材である。

Step1 メロディー（ユニゾン）【みんなでメロディーを歌おう】
～何度も歌って覚えちゃおう～
Step2 伴奏（ユニゾン） 【メロディーに歌で伴奏をつけてみよう】
～とても簡単！繰り返すだけ～
Step3 Step1＋Step2 【メロディーと伴奏を一緒に歌おう】
～うまくあわせられるかな？ともだちの声をよく聴こう～
Step4 伴奏（カノン） 【伴奏をパワーアップさせよう】
～ずらして歌うだけでおもしろい！～
Step5 Step1＋Step4 【パワーアップした伴奏にメロディーをのせてみよう】
～いろいろに重なり合う声が聴こえるかな？～
Step6 メロディー（カノン）【今度はメロディーもパワーアップさせよう】
～つられずに歌えるようになるかな？～
Step7 Step6＋Step4
【メロディーも伴奏もパワーアップ！スーパー「あめこんこん」を歌ってみよう】
～４つに重なり合う歌声を聴きながら歌えるかな？～

（４）前の門さん

この曲は，本プロジェクトの共同研究者である作曲家，藤井修氏により編曲されたわらべうたである。メロディーの歌いやすさから，一度歌うと耳に残り口ずさんでしまうような曲である。また，伴奏のオスティナートである「よいさっさ」は，言葉のリズムが良く，親しみやすい。「よいさっさ」に合わせて，動きを考えさせることもできる。
ステップは，前曲の「あめこんこん」と同様であるため，ここでは省略する。

（５）いちもんめのいっすけさん

これまでの教材に比べ，曲が長くなり，音域も一気に広がるため，わらべうた編の中では一番レベルの高い曲として最後に配置した。歌い慣れるまでの大変さも確かにあるが，曲が大変おもしろいので，是非挑戦して欲しい曲である。ステップは，前掲の「あめこんこん」と同様である。また，この曲に限りステップアップの後に，レベルアップ（曲を徐々に速くして歌う）の演奏風景も取り入れている。

２．コーラス編

コーラス編は，「バッハによるカノン」，「かえるの合唱」，「Dona Nobis Pacem」，「夏が来た」の4曲を扱っている。わらべうた編と異なるのは，西洋的音階によるカノンを集めている点である。和声的合唱に取り組む際の基礎的な練習教材として扱えるものを選曲した。

（１）バッハによるカノン

コーラス編における最も基礎的なカノンとして取り上げている。メロディーがシンプルな上行下行の音階でできており，覚えやすいことから，授業の導入の発声練習に適している。しかし，美しい響きを作るには練習が必要である。一人一人が正しく音程に注意して歌い，他声部を聴きながら歌う力（音程感覚）を身につけるための，初歩的教材として好適である。継続して扱っていくことを勧めている。バッハのカノンについては，竹下が詳

しく研究している[6)]。

Step1　ユニゾン　【基礎の基礎！正しく歌おう】
Step2　２声カノン　【他パートを聴いて歌ってみよう】
Step3　３声カノン　【ハーモニーを感じて歌ってみよう】
Step4　４声カノン　【４つに重なり合う声を聴きながら歌ってみよう】

（２）かえるの合唱

小学校の教科書に掲載されており，小学校低学年で扱う曲である。輪唱（歌による無限カノン[7)]）の代表曲として広く知られているが，実際の指導においては，言葉のカノンで終始してしまうなど，歌声によるカノンの良さを味わうことが課題である。そこで，見本演奏として本デジタル教材に取り上げ，指導の際の活用も視野に入れた。

Step1　ユニゾン　【基礎の基礎！正しく歌おう】
～隣同士の音に気をつけよう～
Step2　2声カノン　【他パートを聴いて歌ってみよう】
～音が上がるときも下がるときも正確に歌おう～
Step3　4声カノン　【4つに重なり合う声を聴きながら歌ってみよう】
～４つのパートが同じピッチで歌えるようになろう～

（３）Dona Nobis Pacem

「我らに平安を」という意味の，古くから歌い継がれてきた聖歌である。ラテン語で歌われるが，題名の3つの単語のみで曲ができているため，歌詞はすぐに覚えられる。テンポがゆったりしたこの曲は，単旋律によるメロディーの美しさだけでなく，カノンで重ねたときの響きの美しさに格別のものがある。ただ声を出して歌うだけでなく，他の人の声と合わせて響きを作る楽しさを味わわせることのできる教材だと考える。

Step1　ユニゾン　【音の跳躍に気をつけて歌おう】
～明るくのびのびと～
Step2　3声カノン　【他パートとの重なりを感じて歌ってみよう】
～ずらしただけできれいなハーモニーが聴こえてくるよ～

（４）夏が来た

本デジタル教材の最後を締めくくるものとして，中世イギリスで成立した現存する世界最古のカノンである「夏のカノン」（英：Sumer is icumen in）を取り上げた。音楽史的にも重要で取り上げるに値する曲だが，その曲の面白さとしても驚くものがある。

カノンの構成は，メロディーの４声カノンとオスティナートの2声カノンである。もともとは中英語という古い英語で歌われているが，併せて日本語でも歌えるように，対訳をもとに日本語のオリジナル歌詞を作成し，楽譜に付した。音域が広く，音の動きも多いため，丹念な練習が必要であるが，明るくさわやかな響きのする曲である。映像では，男声がオスティナートのパートを担当しているが，実際は男女関係なく，どのパートでも歌うことができる。個々の声域に合わせてパートを決めていきたい曲である。また，このオス

ティナートは音域が狭いため，変声期を迎えた男子でも歌に参加しやすく，子どもの技術差への対応にも配慮できよう。

Step1	メロディー（ユニゾン）	【音の跳躍と音域の広がりに注意して歌おう】
Step2	オスティナート（ユニゾン	【短いフレーズを繰り返し歌ってみよう】
Step3	オスティナート（カノン）	【お互いのパートを聴きながら歌おう】
Step4	Step1+Step3	【3つのパートのテンポを合わせて歌おう】
Step5	メロディー（2声カノン）	【お互いのパートを聴きながら歌おう】
Step6	Step5+Step3	【それぞれのパートの出だしをはっきり歌おう】
Step7	メロディー（4声カノン）	【4つのパートの重なりを感じながら歌おう】
Step8	Step7+Step3	【6つのパートの重なりを感じながら歌おう】

Ⅳ　本デジタル教材を使った講習会とそのアンケート調査

本デジタル教材を使用して，いくつかの講習会および授業を行っている。それぞれの概要とアンケート調査結果をまとめ，本デジタル教材がどのように受け取られ，その効果を期待されているか考察する。

１．アンケート調査①「八尾市教育委員会音楽教育部会講習会」

（１）概要

日時：2009年８月４日　　対象：現職教員　30名

内容：本デジタル教材を使用して，実技も含めた講習会を行う。本デジタル教材の映像を交えながら，「だるまさん」，「いちもんめのいっすけさん」および「バッハによるカノン」を体験してもらった。現職の教員向けの講習のため，本デジタル教材取り扱いに加え，実際の授業を想定した実践を多く取り入れた。

講師：寺尾正

（２）アンケート調査

質問①　デジタル教材を使った講習を受けられて，先生（あなた）自身が楽しめましたか？

5　とても楽しめた	5人
4　楽しめた	20人
3　普通	5人
2　あまり楽しめなかった	0人
1　楽しめなかった	0人

質問②　このコンテンツを先生自身の授業の中で使用したいと思いますか？

5　ぜひ使用したい	5人
4　使用したい	10人
3　機会があれば使用したい	12人
2　どちらともいえない	2人
1　使用しない	1人

質問③　わらべうたをカノンにして教材とすることをどのように思いますか？
5　とても良いと思う　13人
4　よいと思う　16人
3　どちらともいえない　1人
2　あまりよいと思わない　0人
1　よくないと思う　0人
質問④　子どもたちがこの教材を繰り返し練習することによって，ア・カペラ（無伴奏合唱）で歌う技能が身に付くと思いますか？
5　とてもそう思う　8人
4　そう思う　18人
3　どちらともいえない　4人
2　あまりそう思わない　0人
1　思わない　0人

（3）感想（抜粋）
・すぐできる　すばらしさ　おもしろさ。ハーモニーが楽しめる。ぜひやってみたいです。
・ステップアップの段階が丁寧なのでとてもわかりやすく身近です。
・わらべうたがこんなに楽しくて簡単に取り組める教材だとは思っていませんでした。色々な形で進めていくと子どもたちの興味も深まっていくと思いました。
・身近なわらべうたが合唱に繋がる教材になることを今日初めて知り，とても新鮮で楽しみながら学ばせていただきました。授業の中で実践してみたいと思いました。
・昔大学で学んだコダーイシステム，リトミックも今日の講習で何か結ばれたような感じです。もっとはやく知りたかったです。中学校でも大切な共通の課題を見つけられました。
・遊びの部分，手遊びや身体表現をしている映像も見たかったです。
・小学生や上手ではない人の歌っている姿とかだともっと分かりやすいと思います。
・発声のところからの映像が欲しいです。練習風景や途中経過もあれば分かりやすいと思います。
・変声期にある男の子が歌っているところが見たい，聴きたいです。
・子どもは輪唱などで歌うことが大好きです。でもどうしても，他に負けないように頑張ってしまいがちです。今日のような響きのある声で歌い合えたらもっと違う喜びが感じられると思います。
・振り付け，身体表現について簡単な説明があればと思います。発声，声を揃える指導についてももう少し詳しくしてほしいです。

（4）考察
現職教員を対象に行われた講習会であるが，本デジタル教材で扱っているような曲を取り入れた現場での実践は，あまり行っていないことが分かる。しかし，わらべうたを歌って楽しみ，新しい発見があったと回答している教員はかなり多い。また，多くの教員がわらべうたを授業で扱う意味を理解している。
また，感想には本デジタル教材に対する要望が多く見られ，教材開発に関する期待の大きさを感じた。特に，共通教材や変声期の男子への対応，音取りや生徒への声かけの方法

など，より具体的な対処法を求める声が多かった。これらは今後の教材開発に役立てる必要がある。

２．アンケート調査②「滋賀県立石山高等学校　大学見学会における模擬授業」

（１）概要
日時：2009年9月18日　　対象：滋賀県立石山高等学校3年生　37名
内容：「楽しく学ぶコーラスの基礎～ディジタル教材を使用して～」と題して，石山高校音楽専攻の学生を対象にして行った授業である。本デジタル教材の映像を交えながら,「だるまさん」,「いちもんめのいっすけさん」,「バッハのカノン」および「夏が来た」を体験してもらった。その他,音楽系大学受験対策用の課題集として用いられているコール・ユーブンゲン[8)]と比較しながら，多声音楽のエクササイズとしての本デジタル教材のおもしろさを紹介した。
講師：寺尾正

（２）アンケート調査
質問①　このような歌唱の活動は，今までに体験したことがありましたか。
1 あった　　4人
2 なかった　　33人
3 よくおぼえていない　0人
質問②　今日の授業は楽しかったですか。また，どのようなところが楽しかったのだと思いますか？
5 とてもそう思う　　31人（楽しく歌えたこと，わかりやすかったところ，
4 そう思う　　3人　　様々なカノンの体験，みんなで歌えたこと，等）
3 よくわからない　　3人
2 あまりそう思わない　0人
1 全くそう思わない　　0人
質問③　このような授業を継続して行ったら，どのような技術が身につくと思いますか。
　音程が上手にとれる（複数）
　声を合わせる（複数）
　声楽においての基本
　周りの声を聴きながら歌うこと
　音楽的感性，和声感，リズムや拍を感じる力

（３）感想（抜粋）
・カノン・輪唱がこんなに楽しいということが分かった。（複数）
・合唱の練習に使いたい。（複数）
・簡単な曲でも，ずらして歌うことで音楽が広がることが分かった。
・楽しみながら歌えた。またこんな授業を受けたい。
・「自分達で音楽を創っていく」という感覚が実感できた。
・かえるの合唱，不思議！

（4）考察

質問①の結果から，ほとんどの生徒がわらべうたをカノンにする活動を経験したことがないことが分かった。質問②の回答からもわかるように，カノンで歌う楽しさを多くの生徒が実感しており，わらべうたやカノンの教育的効果を踏まえても，このような歌唱活動は，もっと教育現場で広がっていくべきだと感じられる。音楽の専門家を目指す若い彼らにとっても，これらの教材は新鮮に感じられたようである。

また，今回の授業を経験して，カノンの楽しさ，カノンで身につく技能，みんなで歌える良さ，というものを実感したようである。カノンを「かえるの合唱」のみで終わらせるのではなく，もっと音楽的・歴史的背景も取り入れて教育現場で実践されても良いのではないか，と感じられる。

3．アンケート調査③「大阪教育大学公開講座」

（1）概要

日時：2010年6月19日　　対象：教員対象であるが一般募集

内容：「教員のための合唱基礎講座」と題した講座で，27名の参加者が集まった。今までの講習会と流れはほぼ同じで，本デジタル教材の映像を交えながら，「だるまさん」，「いちもんめのいっすけさん」および「バッハによるカノン」を体験してもらった。

講師：寺尾正

（2）アンケート調査

質問は，アンケート調査①と同じである。ただし，今回は音楽を専門に教える教員だけでなく，広く音楽に興味を抱いている方々が講座に参加し，アンケートに答えている。

質問①　デジタル教材を使った講習を受けられて，先生（あなた）自身が楽しめましたか？

5　とても楽しめた　　21人
4　楽しめた　　4人
3　普通　　1人
2　あまり楽しめなかった　　0人
1　楽しめなかった　　1人

質問②　このコンテンツを先生自身の授業の中で使用したいと思いますか？

5　ぜひ使用したい　　12人
4　使用したい　　7人
3　機会があれば使用したい　　7人
2　どちらともいえない　　1人
1　使用しない　　0人

質問③　わらべうたをカノンにして教材とすることをどのように思いますか？

5　とても良いと思う　　20人
4　よいと思う　　5人
3　どちらともいえない　　1人
2　あまりよいと思わない　　0人
1　よくないと思う　　0人

質問④ 子どもたちがこの教材を繰り返し練習することによって，ア・カペラ（無伴奏合唱）で歌う技能が身に付くと思いますか？

5 とてもそう思う	17人
4 そう思う	8人
3 どちらともいえない	2人
2 あまりそう思わない	0人
1 思わない	0人

（3）感想（抜粋）

・低学年（1，2年）には,音楽専科が入りません。常に自分達で合唱指導がで きるよう，わらべ歌だけでなく共通教材についても指導してほしいです。
・音や電子音のざわめく現代にあって，人間の本当の声が一体どこにあるのか，今日発見できた。
・大学生の実践映像の他に，小，中，高校生の実践映像がもっとあれば見てみ たいです。
・音楽を専門としない教員のために，音取りをしていく様子などが収録されて いると良いかな，と思ったりしました。
・私は音楽指導にスキルや経験が少ないため，もう少しレベルが低い講座もあ ればありがたいです。
・音楽が苦手な人のために，音楽用語を噛み砕いて教えて頂けるとうれしいで す。（ソルフェージュ，順次進行，オブリガート，カデンツなど）
・小学校で童謡や文部省唱歌をあまりやっていないのに，いつも閉口してしま います。このような取り組みがもっと広がってくれると，ありがたいと思い ます。

（4）考察

アンケート調査の結果からも分かるように，参加者の満足度が高い講習会であった。授業する側においても，参加者がわらべうたを歌うことを楽しんでいることが手に取るように分かった講習会であった。

その一方で，もっと分かりやすい言葉を使って欲しい，より実践的に分かりやすい教材が欲しいなどの意見も聞かれた。このような教材に対する意見も，今後の教材開発に生かしていく必要があると再度確認できた。

これら3つのアンケート調査より，わらべうたが教育現場ではまだあまり取り入れられていないこと，その一方で，わらべうたのカノンは効果的な歌唱教材であり，現職教員の方々も活用方法を模索していることが分かった。また，教員のデジタル教材に対する期待が高く，今後より具体的で効果的なデジタル教材開発を行っていく必要性も強く感じられた。

Ⅴ 終わりに

カノンは，同じ旋律をずらして歌われる。本デジタル教材では，すべてが同度でのカノンであったが，カノンには多くの種類がある。どの形式のカノンでも，多くの声部が加わり独自に動いていくことで,単純なことを繰り返しても楽曲全体がおもしろいものとなる。

つまり，それぞれの声部が同じ拍の中で律動するおもしろさを感じると同時に，自らの発している声を正確に認識することが出来るのである。このように，単純なものから音楽が広がっていくことに，これからの音楽教育を考えるためのヒントがあるのではないだろうか。

本デジタル教材を制作し，現在はそのvol.2が完成を控えているところである。vol.1に対しては，賛否両論，様々な意見をいただいた。今回のアンケート調査からも，わらべうた以外の曲を扱って欲しい，という感想があり，教育現場でわらべうたを扱うことに抵抗のある方がいることもよく理解できた。さらに，わらべうたをカノンにして教育現場で用いることに異議を唱える声も聞く。しかし，私たちは，第一に子どもの目線に立って教材を選んでいく姿勢を貫きたい。こどもが「楽しい」と感じる活動から，より本質へ近づく音楽活動へと導く方法を探っていく必要を感じる。

中世，ルネサンスから現代までの西欧クラシック音楽，ポップスはもちろん，我が国を含めた世界のエスニック音楽の中心には，多くの場合，歌がある。また，現代情報化社会においては，これらを比較的自由に聴くことも可能である。望めば人は，生涯何らかのかたちでより広く，深く歌に関わることができる時代となったといえる。しかし，本当の歌声，人間が古来持つ歌声は見過ごされがちではないだろうか。エスニック音楽に注目する動きや，教育における日本音楽への回帰が取り上げられるようになったが，音楽の原点に立ち戻り，中世・ルネサンスでの単旋律からポリフォニーへの進化過程や，子どもが遊びながら歌うわらべうたに，その源流を見る気がしてならない。あらゆる時代の音楽を聴くことが出来る現代だからこそ，音楽科では何を教えなければならないかを考える必要がある。そして，このデジタル教材の流れが，現在の学校教育において一石を投じるものとなることを願っている。

なお，本デジタル教材は児童生徒が直接聴取できるよう編集が施されているが，でき得れば，教員自ら範唱し，指導することが望ましいと考える。

最後に，この教材制作にあたり，その多くを大学院生の協力を得て完成に至ったことを特記しておく。

注

1）『小学校学習指導要領音楽編』（2008，文部科学省）では，低学年で斉唱や輪唱，中学年で二部合唱，高学年においては和声的な響きを体験できる合唱の活動をすることが明記されている。

2）わらべうたのカノンに発展性の無さを指摘する意見もある。林光は『シリーズ授業⑧音楽　リズム表現と合唱』（1992，岩波書店，p.66）で，わらべうたのカノンをもとに合唱音楽へつなげることの限界を述べた上で，むしろわらべうたを使って音楽教育を豊かにしていくことに重点を置くべきだと述べている。

3）竹下裕来『歌唱の基礎技能を育てるデジタル教材の可能性－カノンの音楽的特性を手がかりに―』（大阪教育大学2009年度修士論文，p.68）において，カノンがおよぼす歌唱技能育成の効果についてまとめている。

4）同上書p.67
5）文末の資料参照。
6）竹下裕来『歌唱の基礎技能を育てるデジタル教材の可能性－カノンの音楽的特性を手がかりに―』（大阪教育大学2009年度修士論文pp.34－37）において，カルドシュ・パール研究をもとに，バッハのカノンの特性について述べている。
7）『新訂標準音楽辞典』（1966，音楽之友社）によると，輪唱について「同じ旋律を各声部が等しい間隔をおいて順次に模倣して歌ってゆき，歌い終わった声部はまた最初にかえり，これを何回も繰り返すもの。」と記述してある。
8）コール・ユーブンゲンとはそのタイトルの通り，コーラス教則本であるが，実際には一巻のみ入学試験に課している大学が多く，教則本本来の目的ではなく受験のためだけに使用されている場合が殆どである。2巻3巻では，すべて合唱のエクササイズとなっているが，我が国では本来の目的である合唱の訓練のために，2巻3巻が使用されることは殆どない。

引用・参考文献

・淺香淳編　『新訂標準音楽辞典』1966 音楽之友社
・稲垣忠彦，谷川俊太郎 他編『シリーズ授業⑧音楽　リズム表現と合唱』1992　岩波書店
・イルディコー・ヘルボイ＝コチャール
『合唱指導の出発点』2002　音楽之友社　山岸徹訳
・尾原昭夫選曲『日本のわらべうた〔歌曲集全3巻〕』1994　柳原書店
・カルドシュ・パール『合唱の育成・合唱の響き』1994　全音楽譜出版社
羽仁協子監修　菅原恵利訳
・城多又兵衛訳『コールユーブンゲン2巻』1954　音楽之友社
・城多又兵衛訳『コールユーブンゲン3巻』1956　音楽之友社
・近藤譲　『音楽教育実践ジャーナル　vol.6 no.1』2008　日本音楽教育学会
・柴田南雄・遠山一行総監修　『ニューグローブ世界音楽大事典　第4巻』1994　講談社
・下中邦彦編　『音楽大事典　第2巻』1982　平凡社
・竹下裕来
『歌唱の基礎技能を育てるデジタル教材の可能性―カノンの音楽的特性を手がかりに―』
2010　大阪教育大学大学院　音楽教育専攻　修士論文
・フォライ，カタリン／セーニ，エルジュベート　共著
『コダーイ・システムとは何か』1975　全音楽譜出版
羽仁協子・谷本一之・中川弘一郎　共訳
・フレデリック・フースラー／イヴォンヌ・ロッド＝マーリング　共著
『うたうこと』1987　音楽之友社　須永義男・大熊文子訳
・堀内敬三・野村良雄編『音楽辞典　楽語』1954　音楽之友者
・三木佐知彦訳『コールユーブンゲン1巻（全訳）』1939　大阪開成館

Verification of Singing Digital Teaching Material That Takes up Canons of Old Children's Songs

TAKESHITA Yuki* and TERAO Tadashi**

** Master's Course Completion of Music Education, Osaka Kyoiku University, Kashiwara, Osaka, 582-8582, Japan*
*** Department of Music Education, Osaka Kyoiku University, Kashiwara, Osaka, 582-8582, Japan*

This text is a research of the digital teaching material by sound and image that the Music education course producted in a special, educational project in Osaka Kyoiku University in 2008 fiscal year. In this development of teaching materials, we paid attention to "Children's old songs" and "Canons". In this thesis, we clarify the reason to have chosen these tunes and the content of this teaching material. Also we verify the effect of this teaching material based on the questionnaire in the open lecture and the classes with digital teaching material.

Key Words: canon, old children's song, digitization, development of teaching materials

参考資料

Step 3
❶よいさっさ よいさっさ よいさっさ
❶まえのかどさん

このわらべうた編では、小学校低学年からを対象に
5つの教材を作りました。